

岩手大学工学部に関するQ&A

平成28年度に新たに設置される岩手大学工学部に関するQ&Aをまとめました。大学進学のご参考にして頂ければ幸いです。なお、記入内容については、正確であることを心がけましたがあくまで参考資料であり、必ず「平成28年度一般入試学生募集要項」「2016岩手大学大学案内」などでの確認や、必要に応じて大学への問い合わせをお願いします。また、ご質問等は、末尾の連絡先までお願いします。

[1] 理工学部全般、入学前教育等について

(Q-1) 理工学部ではどのような学生に入学して欲しいですか。

(A-1) 工学的な「ものづくり」に関心を持つとともに、自然のしくみや摂理に関心を持ち、自然科学に深い関心を持つ学生に積極的に入学して欲しいと考えています。

(Q-2) 理工学部への改組により、入学定員がこれまでの400名から440名に増えました。どの分野で定員増になっているのですか。

(A-2) 今回の改組により化学・生命理工学科の生命コースと物理・材料理工学科の数理・物理コースが新設されました。つまり総定員の増加は理学的分野の「生命コース」と「数理・物理コース」の新設に伴うものの他に、2つの特別プログラムの設置を通して、他のコースにも以前と同程度またはそれ以上の定員が付けられています。

(Q-3) 理工学部なのに、システム創成工学科の名称は「理工学科」ではなく「工学科」です。どうしてですか。

(A-3) 従来までの学部の基本理念である「ものづくり」を大事にする工学分野の経験・知識・技術をこの学科の中の4コースでしっかりと引き継ぐためです。

(Q-4) 新しくできる理工学部のどのような部分が「理学的」のですか。

(A-4) これまでも岩手大学工学部の教育研究の中には工学的な部分と理学的な部分がありましたが、今回の改組では「理学的な部分」をより前面に出して両分野の融合を積極的に推し進める狙いがあります。改組後の理工学部の中で特に「理学的」な部分は、「化学・生命理工学科」の2コースと「物理・材料理工学科」の2コースが主として担っています。

(Q-5) 理工学部を卒業して授与される学位の名称は「理工学士」ですか。それとも「理学士」や「工学士」ですか。

(A-5) 化学・生命理工学科の2コースと物理・材料理工学科の2コースを出た人については「学士(理工学)」、システム創成工学科の4コースを出た人については「学士(工学)」の学位が授与されます

(Q-6) 理工学部の場合は志願は学科単位ですか、それともコース単位ですか。

(A-6) 推薦入試・一般入試前期日程・一般入試後期日程ともコースごとに募集定員を設定して、コース単位で募集します。例えば、「物理・材料理工学科 数理・物理コース」を志望し、第2志望として「システム創成工学科 機械科学コース」と志願票に記入することになります。第2志望まで記入できますが、選考にあたっては第1志望を重視します。

(Q-7) 改組後もこれまでと同様に転学部・転学科の制度はありますか。また入学してからコースを変更することは可能ですか。

(A-7) 制度上は転学部・転学科・転コースはいずれも可能です。ただし転学部・転学科・転コースの際にはいずれも申請に基づく選考過程があり、それに加えてセンター試験や個別試験の得点に加えて入学後の履修状況も判定材料となります。なお、推薦入試の合格者については入学後の転学部・転学科・転コースはできません。

(Q-8) 入学前に英語と数学のプレテストがあるようですが、入学者全員が受験するのですか。

(A-8) 岩手大学理工学部では推薦入試・一般入試前期日程・一般入試後期日程を問わず入学者全員に英語と数学のプレテストを受験して貰います。例年このプレテストは入学式前日の4月6日に実施されます。

(Q-9) 入学前の英語のプレテストの結果はどのように使われるのですか。

(A-9) 教養教育の英語の授業は習熟度別で上級・中級・初級の3クラスがあり、英語のプレテストの結果によりそのうちのどれかに配属が決まります。また特に得点の低い人には英語の補習授業を受講して貰います。

(Q-10) 入学前の数学のプレテストの結果はどのように使われるのですか。

(A-10) 数学の場合も数学プレテストの成績が数学の微分積分学Iの習熟度別クラス分けに使用されます。数学の場合も特に得点の低い人には数学の補強のための授業を受講して貰います。

(Q-11) 旧課程の数学Cの内容を大学で教育してくれますか。

(A-11) 入学後の1年前期に「基礎数学」という講義があり、その中で数学Cに相当する内容を取り扱います。旧課程の数学Cの内容（行列等）は大学の理系学部の研究活動では必須ですから、しっかり学習して下さい。

(Q-12) 大学院への進学を希望していますが、大学院の推薦入試がありますか。

(A-12) 大学院入試には推薦入試と一般入試があります。各コースの学生の中で特に優秀な成績を修めた学生については推薦入試の対象となりますから、いわゆる「受験勉強」なしで大学院への進学が可能になります。

(Q-13) 今回の岩手大学の改組には大学院改組が含まれていないようですが、いずれ大学院も改組がありますか。

(A-13) 岩手大学では平成29年4月スタートを目指して大学院改組の準備を着々と進めております。現在の岩手大学大学院工学研究科は改組により「理工学専攻」となる予定です。

(Q-14) 岩手大学理工学部を卒業した後に、他大学の大学院に進学することは可能ですか。

(A-14) 卒業生の半分以上が岩手大学の大学院に進学して活躍していますが、他大学の大学院進学ももちろん可能であり、他大学の大学院に進んで活躍している先輩もこれまでに沢山います。理工学部となってもこの点は全く変わりません。

(Q-15) 取得可能な教員免許について教えてください。

(A-15) 学科、コースによって異なりますが、高校における第一種教員免許状が下記の表のように取得可能です。ただし、通常よりも取得すべき単位数が増えます。

	化学・生命理工学科		物理・材料理工学科		システム創成理工学科			
	化学コース	生命コース	数理・物理コース	マテリアルコース	電気電子通信コース	知能・メディア情報コース	機械科学コース	社会基礎・環境コース
高等学校教諭 一種免許状 (数学)			●		●	●	●	
高等学校教諭 一種免許状 (理科)	●	●	●	●				●
高等学校教諭 一種免許状 (工業)	●	●		●	●	●	●	●

[2] 推薦入試について

(Q-1) 推薦入試ではどのような人の受験を求めているのですか。また、理工学部ではAO入試は行わないのですか。

(A-1) 岩手大学理工学部では、推薦入試、一般入試前期日程、一般入試後期日程の3通りの入試により多様な選抜を行っています。改組後のどのコースも定員の20%程度を推薦入試枠と設定しており、多様な能力や理工学部分野への高い学修意欲を持つ志願者向けの重要な入試として推薦入試は位置づけられています。口頭試問で基礎学力が身についているかを確認することも特徴の一つです。

平成29年度入試からは新たにAO入試も導入予定です。

(Q-2) 出題内容は理工学部内の全てのコースで統一されていますか。

(A-2) 推薦入試はコース毎で行い、口頭試問の出題内容や方法もコースごとに異なります。

(Q-3) 推薦入試の過去問を具体的に知りたいのですが、公表していますか。

(A-3) 推薦入試の過去問は「概要」の形で公表しています。岩手大学ホームページの「受験生の方へ」の所をクリックして「岩手大学入試情報」に進んでいただければ、過去問題を閲覧することができます。

(Q-4) 口頭試問に上手く答える自信がありませんが、大丈夫でしょうか？

(A-4) 出題される内容は教科書の例題レベルであり、普段からしっかり勉強していれば回答できるはずです。落ち着いて対応することが大切です。志望動機や自分の将来の希望をしっかり持ち、自信を持って臨んでください。

(Q-5) 推薦入試の場合に他コースを「第2志望」にすることはできますか。

(A-5) できません。1つのコースのみに応募して貰います。

(Q-6) 推薦入試合格者はどのような入学前教育を受講するのですか。

(A-6) 岩手大学理工学部では推薦入試合格者にもセンター試験の受験を強く推奨しております。また推薦入試合格者全員に岩手大学理工学部の指定する数学・英語の入学前教材（e-learning教材）の学習、および指定された課題図書のリポート作成を課しております。

(Q-7) 推薦入試合格者の入学前教育は義務ですか。

(A-7) 入学前教育に単位の認定はありませんが、入学前教育は入学後の学修に必要な基礎を固めるために大変重要なものですので、受講は義務と考えて下さい。入学前教育の受講状況は合格者本人のみならず高等学校にもお知らせします。また4月の入学式の前日に岩手大学にて数学と英語の入学前プレテストがあり、推薦入試合格者もこれらを受験しなければなりません。従って気を抜かずしっかり勉強しておく必要があります。理工学部では合格者の入学前教育の進行状況を常時モニターしており、進んでいない場合は本人と高等学校に連絡を入れます。

[3] 一般入試について

(Q-1) センター試験、一般入試前期日程、一般入試後期日程ではコースによって選択すべき理科の科目の指定がありますか。

(A-1) センター試験の理科については、どのコースを志望する受験生でも物理・化学・生物の中から2科目選択です。また一般入試前期日程・一般入試後期日程ではコースにより異なります。化学・生命理工学科の2コースの場合は（物理基礎・物理）、（化学基礎・化学）、（生物基礎・生物）の中から1科目選択ですが、それ以外の学科の6つのコースの場合は（物理基礎・物理）と（化学基礎・化学）から1科目を選択することになります。

(Q-2) センター試験、一般入試前期日程、一般入試後期日程ではどこのコースでも数学は必修ですか。

(A-2) 数学は必ず選択しなければなりません。センター試験では「数I・数A」と「数II・数B、簿記・会計・情報関係基礎から1科目」の2つを選んで下さい。また一般入試前期日程、一般入試後期日程では数学の出題範囲は「数I・数II・数III・数A・数B」です。

(Q-3) 一般入試前期日程、一般入試後期日程では志望するコースに「第2志望」もありますか。あるとした場合、同じ学科内で第1志望と第2志望を選ぶのでしょうか。

(A-3) 理工学部の志願では第2志望まで認めております。しかも学科に関係なく「第1志望」のコースと「第2志望」のコースを選ぶことができます。ただし合格者の決定の際は第一志望が重視されます。

(Q-4) 愛知県の学生ですが、一般入試を名古屋会場ではなく盛岡の岩手大学で受験したいと思っています。それは可能ですか。

(A-4) 可能です。募集要項に添付されている「志願票」の「希望する試験会場」欄で自分の希望する試験会場を選んで記入して下さい。ちなみに岩手大学理工学部は一般入試前期日程と一般入試後期日程を盛岡（岩手大学）会場、札幌会場、名古屋会場の3箇所で開催します。

(Q-5) 一般入試前期日程や一般入試後期日程では追加合格はありますか。

(A-5) ありますが、例年少数にとどまっております。追加合格者は合格者名簿には含まれず、公表もされません。追加合格が発動になった場合に岩手大学から本人に追加合格の連絡が行き、本人に入学の希望があるか否かの意思確認が行われます。

(Q-6) 一般入試前期日程や一般入試後期日程について、試験実施後に自分の得点を知ることが可能ですか。

(A-6) 可能です。成績開示の方法は、学生募集要項31ページに掲載しています。岩手大学の入試課に自分の答案の開示請求をして下さい。

[4] 特別プログラムについて

(Q-1) 先端理工学特別プログラムではどのような学生の受験を求めているのですか。

(A-1) 大学院修士また博士課程までも視野に入れ、将来の自然科学や科学技術をリードする研究者を目指す人を求めています。高等学校の段階から自然科学に強い情熱を持った受験生、高校の理数系クラブ活動やSSH事業、数学・物理・化学オリンピックなどの経験を持った受験生の応募を強く期待しております。なお、専任の教員が配置され、特別プログラム生専用のスペースや研究設備も準備されています。

(Q-2) 地域創生特別プログラム（ものづくり系）はどのような受験者を求めているのですか。

(A-2) ものづくりを通じて地域社会に貢献したり、地域産業の中核的技術者になったり、例えば、地域の課題を技術面で解決できるような人材を養成するのがこのプログラムの目的です。従って社会に出てそのような能力を活かして活躍しようとする人を求めています。具体的には、高校でロボット製作に力を入れたり、地域に有益なアプリ開発などを経験したり、電気自動車の開発を手がけるなど、岩手大学発のものづくりにチャレンジできるような受験生を募集しています。

(Q-3) 地域創生特別プログラム（防災・まちづくり系）はどのような受験生を求めているのですか。

(A-3) 地震、津波、洪水、火山噴火、など、地球上至る所で大災害が発生しており、被害が大規模化する傾向にあります。そのような社会の到来を見越し、防災やまちづくりに関する学びを通常の社会基盤・環境コースよりも数多くかつ実践的に学び、防災・まちづくりのためのプロの養成を目指しています。

(Q-4) 先端理工学特別プログラムはすべての学科に共通の枠で示されておりますが、学科内のコースとは別のコースなのですか。

(A-4) 特別プログラムはコースではなく、特別プログラム学生（履修生と呼びます）は全員が8つのコースのどれかに所属します。ただコースの通常の学生とは履修メニューが少し異なり、研究者を目指す学生が身に付けるべき教養、技能、語学力またリーダーシップを修得するための履修メニューをこなしてもらいます。4年生になると、大学院の科目を早期履修することも予定しています。

(Q-5) 先端理工学特別プログラムの学生は所属するコースに関係なく合同でいくつかの独自の講義を受講するのですか。

(A-5) 基本的にはそれぞれの学科・コースの指定する先端理工学特別プログラム用の履修メニューを履修して貰いますが、所属コースの枠を越えて先端理工学特別プログラム履修生として履修する科目もあります。

(Q-6) 地域創生特別プログラムはシステム創成工学科の中だけに存在しますが、化学・生命理工学科や物理・材料理工学科には地域創生特別プログラムはないのですね。

(A-6) その通りです。しかし繰り返しますが、このプログラムの学生はこのプログラムの学生はシステム創成工学科の4つのコースのいずれかに所属することになります。

(Q-7) 平成28年度入試では先端理工学特別プログラムの履修学生は入学後に希望をとって選抜するとのことですが、その選抜はいつ実施されるのですか。またどのように行うのですか。

(A-7) 平成28年度入試においては推薦入試・一般入試前期日程・一般入試後期日程の合格者すべてに対して「先端理工学特別プログラムの履修を希望するか否か」の意向調査を行い、希望する者の中から4月初旬に理工学部内で選抜します。

(Q-8) 入学した後も先端理工学特別プログラムの履修を希望することはできますか。

(A-8) 可能ですが、幾つかの条件がありますので、所属コースの担任及び特別プログラムの専任教員と相談して下さい。なお、特別プログラムの履修をやめても、通常コースでの卒業には支障は発生しません。

(Q-9) 先端理工学特別プログラムの履修にはどのようなメリットがあるのですか。

(A-9) 先端理工学特別プログラムの履修生は英語の上級または中級の講義、国際研修、社会体験学習、高度な専門分野の講義等を履修して貰います。従って学力・語学力・就職力が通常学生よりしっかりと身につきます。また、大学院への進学を想定したプログラムとなっており、大学院修士課程の講義の先取りをすることも出来ますので大学院受験や進学後の勉学が非常に有利になります。

(Q-10) 先端理工学特別プログラムを履修したいのですが、実は英語が苦手です。大丈夫でしょうか。

(A-10) 岩手大学では入学式前日に実施する英語プレテストで入学者の英語力を計り、その結果を教養教育の英語の習熟度別クラス分けに使っています。英語のクラスには上級・中級・初級があり、別々の内容のレッスンをします。英語プレテストで得点が低い場合には先端理工学特別プログラムの履修学生であっても英語の初級クラスに配属されてしまいますから、そうならないように入学前にしっかりと英語力を身に付けておいて下さい。

(Q-11) 特別プログラム履修生が指定された履修メニューを4年間で完了出来ない場合に、その学生は留年または卒業延期しなければならないのですか。

(A-11) 通常の卒業要件を満たしていれば「通常プログラム」修了ということで留年する必要もありませんし、きちんと卒業もできます。しかし卒業時に「特別プログラム修了証」は交付されません。

(Q-12) 地域創生特別プログラムの履修のメリットを教えてください。

(A-12) 地域の問題を見出し、それを解析し、解決する能力を身に付けて貰うためのプログラムですから、社会に出て即戦力として地域の課題に取り組むことが出来るようになります。その意味で特別プログラム修了証は就職後の履修生のキャリアアップに貢献するはずです。

(Q-13) 理工学部の3つの特別プログラムの履修生は通常の学生よりも負担が重くなるようですが、特別プログラム修了生にはどのような特典がありますか。

(A-13) 短期的に見るなら特別プログラム履修生は通常学生よりも多くの事柄を学ぶ必要がありますが、それは長い目で見ると自身の付加価値の増大になるはずです。また学部卒業時に卒業証書とともに「特別プログラム修了証」が交付されます。これがあれば大学院進学や企業への就職の際に有利に働くはずです。

(Q-14) 特別プログラムの履修生には経済的な特典はないのでしょうか。

(A-14) 特別プログラムの履修生に限定した入学料や学費の免除等の特典はありません。しかし通常の学生と同様に奨学金の受給や授業料免除の対象になります。

(Q-15) 特別プログラムから通常プログラムに移ることは可能ですか。

(A-15) 可能です。前述したように、入学時に特別プログラム履修生としてスタートした学生であっても通常の卒業要件を満たせば通常コース修了者として卒業できます。

(Q-16) 通常プログラムの学生であっても卒業時に特別プログラムの履修条件を完全に満たす履修をすれば、卒業証書と一緒に「特別プログラム修了証」を発行してくれますか。

(A-16) 「特別プログラム修了証」は特別プログラム履修者に対して出すものであり、通常プログラムの学生に「特別プログラム修了証」を発行することはいたしません。

(Q-17) 岩手県外在住ですが地域創生特別プログラムを応募できますか。

(A-17) もちろん応募できます。いわゆる「地域枠入試」ではありませんので、応募される方それぞれの地域で活躍できる人材を育成することがこのプログラムの目的です。

(Q-18) 地域創生特別プログラムで入学した場合、就職先は岩手県内や東北地区に限定されますか。

(A-18) 就職に関しては地域で頑張る中小の企業へも目を向けて欲しいとは考えておりますが、就職先が限定されることはありません。大手企業への就職も、本人次第ですが、十分に可能です。

【お問い合わせ】

岩手大学工学部 入試・広報特別対策室

MAIL: tokutai@iwate-u.ac.jp

TEL 019-621-6410 FAX 019-621-6314

